

取組事例の名称		八戸地区浚渫・埋戻し工事
概要	対象	航路浚渫・津波洗掘部埋め戻し
	種別	<input type="checkbox"/> 救援 <input checked="" type="checkbox"/> 機能回復 <input type="checkbox"/> 新・増設 <input type="checkbox"/> 復興 <input type="checkbox"/> その他 ()
	規模	浚渫土量：138,134 m ³
	実施会社	東亜建設工業（株）
	実施場所	青森 県 八戸 市
	発注者	国土交通省 東北地方整備局

1. 工事等取組の目的及び概要と採用した技術名称

名称：浚渫土砂を有効活用した洗掘個所の埋戻し

津波により、中央防波堤南側先端部と第二中央防波堤北側の間に大規模な深掘れの洗掘が発生した。洗掘個所を放置すると、高波浪時、港内に侵入する波の波高が増大し、基礎マウンドの変形や、航行船舶に支障をきたす恐れがあった。そこで、ポンプ浚渫による浚渫土を有効活用し、トレミー船により濁りを抑制しながら埋戻しを行った。

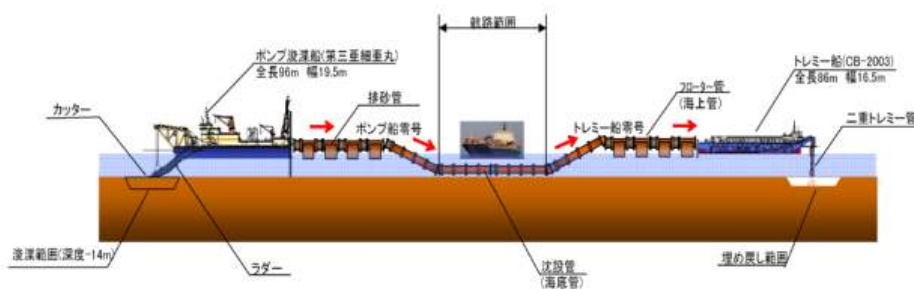
2. 当該技術を採用した理由、当該技術に期待した成果

- ・ 航路浚渫と洗掘個所の埋戻しが同時に施工可能。
- ・ 浚渫土砂を有効活用できる。
- ・ トレミー船を使用することで濁りの抑制が可能。

(写真、イラスト)



施工位置図



施工概念図

取組事例の名称	八戸地区浚渫・埋戻工事
<p>3. 工事等の実施に当たっての課題や留意した事項、苦労した事柄・教訓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 航路部に沈設管を敷設する必要があった。施工中に沈設管が摩耗により破損した場合、復旧に多くの時間を要する。そこで、航路部の沈設管にはダブリング（当て板）を施した肉厚の排砂管を使用した。 ・ 防波堤が一部倒壊しており、海象条件が厳しい中での施工となり運転時間の確保が難しかった。 	
<p>4. 実施後の成果に対する発注者や地元住民等の評価</p> <p>被災地区の住民を対象に、交通船による施工区域内の見学会を実施した。防波堤の洗掘状況や埋戻しの必要性について説明し、地元住民に施工目的を理解して頂いた。また、実際に施工状況を目で見たことで、復興が進んでいることを実感できたとの感想を聞くことが出来た。</p>	
<p>5. 採用した技術に対する改善点、望まれる技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ポンプ浚渫船とトレミー船の組み合わせは特に問題無かった。 ・ 浚渫土の有効活用については、洗掘箇所の埋戻しだけでなく、沈下した岸壁の嵩上げ等にも適用可能であると思われる。 	
<p>6. 今回の取組を通じ、将来の災害対応の為に準備すべきと感じた事項</p> <p>作業船による施工の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海象条件の悪い中でも施工可能な係留設備。 ・ 船体動揺を制御し、施工精度を確保する技術。 ・ 荒天時、迅速な退避を可能にする設備。 	
NETIS登録	